

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 3 区分
 【発行日】平成22年8月5日 (2010.8.5)

【公開番号】特開2010-107094(P2010-107094A)
 【公開日】平成22年5月13日 (2010.5.13)
 【年通号数】公開・登録公報2010-019
 【出願番号】特願2008-278811(P2008-278811)
 【国際特許分類】

F 2 4 F 11/04 (2006.01)

【 F I 】

F 2 4 F 11/04 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月23日 (2010.6.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

吸込口、熱交換器、送風機、風路、吹出口を有する空気調和機の運転制御方法において、冷房運転時に、前記熱交換器を通過した空気の流れに沿って、前記熱交換器の下流側において、下流側ほど温度が下がるときの少なくとも一時期に、前記送風機の送風能力を、正常時の $1/50 \sim 1/2$ 、望ましくは $1/20 \sim 1/5$ とすることを特徴とする空気調和機の運転制御方法。

【請求項 2】

当該空気調和機は運転を制御する制御部を備え、この制御部が、冷房運転中に前記熱交換器の温度上昇が起こっていることを、前記熱交換器または前記送風機または前記熱交換器と前記送風機の上に設置した温度測定器から得て、前記熱交換器の下流側において下流側ほど温度が下がることを認識することを特徴とする請求項 1 記載の空気調和機の運転制御方法。

【請求項 3】

当該空気調和機は運転を制御する制御部と、前記熱交換器を通過した空気の流れに沿って、前記熱交換器の下流側に複数の温度測定器と、を備え、前記制御部が、前記温度測定器の信号から前記熱交換器の下流側において下流側ほど温度が下がることを認識することを特徴とする請求項 1 記載の空気調和機の運転制御方法。

【請求項 4】

吸込口、熱交換器、送風機、風路、吹出口を有する空気調和機の運転制御方法において、当該空気調和機は信号をやりとりすることができる赤外線センサーを用いる放射温度測定器を備え、冷房運転時に、前記放射温度測定器により設定された部屋の設定温度に達した状態を検知しているときの少なくとも一時期に、前記送風機の送風能力を、正常時の $1/20$ 以下、望ましくは停止することを特徴とする空気調和機の運転制御方法。